

課題研究

8月23日（土）
14:45～16:45

会場：西館1階
ホール

「生成の原理」に基づく音楽科授業における 教科内容の体系

その4 教科内容における技能的側面の位置づけ

問題の所在

平成 29 年改訂学習指導要領において資質・能力（コンピテンシー）ベースの教育課程への転換を受け、本学会ではこれまで、「生成の原理」に基づく音楽科授業で育成すべき資質・能力を導出してきた。資質・能力の育成は、教科内容（コンテンツ）とのかかわりがあってこそ実現するものであり、教育実践と関わらせて教科内容の体系を究明することは喫緊の課題といえる。そこで、「生成の原理」に基づく教材研究および実践研究を通して、音楽科における教科内容の体系を構築することを目的として、課題研究のテーマ「『生成の原理』に基づく音楽科授業における教科内容の体系」が設定された（2022年度-2026年度）。

1年次は、音楽科の授業研究においてなぜ「教科内容」に注目するのかという問題意識を共有し、「教科内容」の具体としての「指導内容」とはどういうものか、授業実践事例を検討し、共通理解をはかった。

2年次は、単元において軸となる指導内容を選ぶことを目的とし、「指導内容の4側面の関連」「児童・生徒の発達」という2つの視点から教材研究に取り組み、授業実践での具体的な子どもの姿を通して、「教材研究に指導内容の4側面がいかにかかわるか」について議論を深めた。

3年次は、教科内容における文化的側面の位置づけを明らかにすることを目的とし、郷土の音楽を教材とした授業実践を通して、「文化的側面は子どもの学びの姿にどのように表れていたか」について議論を深めた。

方法

「生成の原理」に基づく音楽科の教科内容の理論的枠組みを明確にした上で、教科内容を授業実践の次元での指導内容として捉え直し、4側面の関連についての実践・検証を行い、そこから教科内容の体系を導き出すという教育実践学の研究方法をとる。

4年次の趣旨

4年次の目的は、「生成の原理」に基づく音楽科の教科内容における技能的側面の位置づけを明らかにすることである。そのために、まず前半では、これまでの経緯および用語を確認し、今回取り扱う表現および鑑賞における技能的側面に関する基本的知識を得る。続いて、教科内容に技能的側面がどのように関わっているのかについて、小学校及び中学校の授業実践での具体的な学びの姿を通して提示する。後半では、前半の内容をふまえて「技能的側面は学びの姿にどのように表れていたか」という観点からパネルディスカッションを行う。

内容

司会 横山 真理（東海学園大学）

1 趣旨説明

鉄口 真理子（鳴門教育大学）

2 歌唱授業にみる技能的側面

講演「声楽の指導法にみる歌唱授業への示唆」

疋田 弘子（徳島文理大学・声楽家）

小学校第5学年の実践報告《スキーの歌》

前田 直人（兵庫県姫路市立香呂南小学校）

3 鑑賞授業にみる技能的側面

講演「学校音楽教育における批評能力育成の意義」

大熊 信彦（東邦音楽大学・元文部科学省教科調査官）

中学校第2学年の実践《フーガ ト短調》

宮里 未希（琉球大学教育学部附属中学校）

4 パネルディスカッション

「技能的側面は子どもの学びにどのように表れていたか」

授業実践者

前田 直人（兵庫県姫路市立香呂南小学校）

宮里 未希（琉球大学教育学部附属中学校）

研究協力者

疋田 弘子（徳島文理大学・声楽家）

大熊 信彦（東邦音楽大学・元文部科学省教科調査官）

小川由美（琉球大学）

進行

鉄口 真理子（鳴門教育大学）